

スポーツイベント論		講義	非常勤講師 武田 作郁
科目カテゴリ	スポーツマネジメントコースの選択必修科目, スポーツトレーナーコースの専門選択科目	科目ナンバリング	113112204

1. 授業のねらい・概要

経済産業省とスポーツ庁は、スポーツを成長産業と位置付け、2016年に5.5兆円だったスポーツ産業規模を2025年までに15兆円にまで発展させる政策を打ち出している。欧米に比べて遅れてきた日本のスポーツ産業は今まさに変革の時を迎えている。本授業では、スペクテイタースポーツ、エンターテインメントとしてのプロスポーツや地域課題解決のためのスポーツイベントを例に、歴史を振り返りながら、スポーツイベントの現状と展望を考察する。

2. 授業の進め方

パワーポイントの資料や映像を用いた講義形式で授業を進めていく。

3. 授業計画

1. ガイダンス	9. スポーツイベントの経営戦略
2. スポーツ文化とイベント	10. スポーツイベントと政治
3. 駅伝	11. 地域課題とスポーツイベント（高齢化社会）
4. 欧米のプロスポーツ経営（アメリカ）	12. 地域課題とスポーツイベント（姉妹都市交流）
5. 欧米のプロスポーツ経営（ヨーロッパ）	13. スポーツイベントのインパクト（レガシー）
6. ヨーロッパ型スポーツ経営（スペイン）	14. スポーツイベントが抱える社会的課題
7. ヨーロッパ型スポーツ経営（ドイツ）	15. まとめ
8. スポーツイベントの収益構造と商業化	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

授業開始までに前回の授業内容を復習し、疑問点などを明確にしておくこと。これらの準備学習には2時間程度が必要である。また、日常的に新聞、テレビ、ラジオにおけるスポーツやニュースに注意を向けて、関連する事柄の情報収集を怠らないこと。これらの準備学習には2時間程度必要である。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業内で適宜解説する。

6. 授業における学修の到達目標

プロスポーツの歴史と現状を学び、スポーツビジネスとはなんたるかを理解する。また、地域課題と手段としてのスポーツを結びつける実践的なスポーツ活用事例を理解する。その上で、生涯を通してスポーツとどのように関わっていくことができるかを想像できるようになることを目標とする。

7. 成績評価の方法・基準

受講態度+レポート課題への取り組み（60%）、期末課題（40%）により評価する。

8. テキスト・参考文献

特定のテキストは使用しない。参考文献は適宜紹介する。

9. 受講上の留意事項

特になし。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無
該当なし。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連
上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。